

動物実験に関する検証結果報告書

国立大学法人京都大学

動物実験に関する外部検証事業

(公益社団法人日本実験動物学会)

2021年3月

2021年3月4日

国立大学法人京都大学  
総長 湊 長博 殿

貴機関における動物実験の実施体制に関して、提出された自己点検・評価報告書に対する検証結果を通知します。

公益社団法人日本実験動物学会  
理事長 三好 一郎



対象機関：国立大学法人京都大学  
申請年月日：2020年7月28日  
訪問調査年月日：2020年11月19～20日  
調査員：喜多正和  
津田雅之  
塩谷恭子

#### 検証の総評

京都大学は18大学院、10学部のほか、13附置研究所、14教育研究施設等を擁する国内屈指の総合大学である。吉田キャンパス、桂キャンパス、宇治キャンパス及び附置研究所等の19部局では、げっ歯類から、家禽、靈長類、大型家畜まで多種多様な動物種を対象に、幅広い研究分野で動物実験が実施されている。「京都大学における動物実験の実施に関する規程」のもとで、動物実験計画の審査、承認、結果報告、教育訓練、自己点検・評価、情報公開など、文部科学省の「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（以下「基本指針」という。）」に則した動物実験が適正に実施されている。また、飼養保管施設は非常に多いが、環境省の「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（以下「飼養保管基準」という。）」に則して適切に管理され、施設の維持管理状況も良好である。毎年、1,000件を超える動物実験計画書が提出されているが、全学の動物実験委員会に加え、各部局に設けられた部局動物実験委員会が動物実験計画書の審査をするなど、現実的に機能する実施体制が構築されている。特に、各部局間において飼養保管施設や実験

室を相互点検する体制がとられている等、適正な動物実験の実施体制において積極的な改善に取り組んでいることは高く評価できる。また、動物実験に関する各種規程や申請様式、教育訓練資料等の英語版が作成され、動物実験を実施する海外の研究者に対して十分配慮されている点も高く評価できる。今後とも、我が国を代表する総合大学であることの認識のもと、動物実験に関してさらなる改善を検討し、引き続き適正な実施に努められたい。

## 検証結果

### I. 規程及び体制等の整備状況

#### 1. 機関内規程

##### 1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合する機関内規程を定めている。
- 機関内規程を定めているが、一部に改善すべき点がある。
- 機関内規程を定めていない。

##### 2) 自己点検・評価の妥当性

「京都大学における動物実験の実施に関する規程」が定められ、その内容は基本指針に則したものである。また、その内容については適宜、改正がされている。よって、機関内規程について、自己点検・評価の結果は妥当である。

##### 3) 検証の結果

- 基本指針に適合する機関内規程が定められている。
- 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 機関内規程が定められていない。

##### 4) 改善に向けた意見

特になし。

#### 2. 動物実験委員会

##### 1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合する動物実験委員会を設置している。
- 動物実験委員会を設置しているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験委員会を設置していない。

##### 2) 自己点検・評価の妥当性

「京都大学における動物実験の実施に関する規程」及び部局動物実験の実施に関する要項、内規等で基本指針に則した委員会の役割や委員構成等が定められ、19名の委員による全学動物実験委員会及び各部局の動物実験委員会が動物実験計画書の審査、動物実験の実施状況及び結果の把握、実験動物飼養保管施設並びに実験室の調査、教育訓練等の実施などの体制がとられている。また、全学動物実験委員会は基本指針が定める3種のカテゴリーの委員によって構成されている。よって、動物実験委員会について、自己点検・評価の結果は妥当である。

##### 3) 検証の結果

## 2020年度 検証結果報告書（京都大学）

<p>■ 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。</p> <p>□ 動物実験委員会は置かれているが、一部に改善すべき点がある。</p> <p>□ 動物実験委員会は置かれていない。</p>
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>すべての動物実験委員会において、基本指針が定める3種のカテゴリーの委員が必ず審議に参加できるような委員会運営を検討されたい。</p>

### 3. 動物実験の実施体制

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <p>■ 基本指針に適合し、動物実験の実施体制を定めている。</p> <p>□ 動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。</p> <p>□ 動物実験の実施体制を定めていない。</p>
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>「京都大学における動物実験の実施に関する規程」において、動物実験計画の立案、審査、承認、結果報告等の手続きが規定され、基本指針に則した動物実験の実施体制が整備されている。また、これらの手続きに必要な「京都大学動物実験計画書」「動物実験結果報告書」「動物実験計画（変更・追加）承認申請書」「飼養保管施設設置承認申請書」「実験室設置承認申請書」「施設等（飼養保管施設・実験室）廃止届」など各種様式が定められている。よって、動物実験の実施体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <p>■ 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。</p> <p>□ 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。</p> <p>□ 動物実験の実施体制が定められていない。</p>
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>特になし。</p>

### 4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <p>■ 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めている。</p> <p>□ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。</p> <p>□ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めていない。</p> <p>□ 該当する動物実験を行っていないので、実施体制を定めていない。</p>
---

## 2020年度 検証結果報告書（京都大学）

### 2) 自己点検・評価の妥当性

「京都大学組換えDNA実験安全管理規程」「京都大学組換えDNA実験安全管理規程施行細則」「京都大学化学物質管理規程」「京都大学における放射性同位元素等の規制に関する規程」「京都大学における病原体等の管理に関する規程」など安全管理に注意を要する動物実験に関連する規程等が定められ、実施体制が整備されている。また、麻薬・向精神薬の使用について、行政へ必要な手続きが行われている。よって、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。

### 3) 検証の結果

- 該当する動物実験の実施体制が定められている。
- 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 該当する動物実験の実施体制が定められていない。
- 該当する動物実験は、行われていない。

### 4) 改善に向けた意見

特になし。

## 5. 実験動物の飼養保管の体制

### 1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

### 2) 自己点検・評価の妥当性

大学内に医学研究科附属動物実験施設、ウイルス・再生医科学研究所附属再生実験動物施設、靈長類研究所をはじめ数多くの実験動物飼養保管施設があるが、すべての施設において管理者及び実験動物管理者が定められており、基本的な管理体制が整備されている。また、実験動物飼養保管施設には標準作業手順書として部局動物実験の実施に関する要項、内規、基準、マニュアル等が整備され、緊急時連絡網及び動物実験施設における災害対策マニュアルも整備されている。よって、実験動物の飼養保管に関する体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。

### 3) 検証の結果

- 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

### 4) 改善に向けた意見

一部の部局の飼養保管マニュアルについては、より充実した内容になるよう改善されたい。

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

京都大学は、平成25年度に「動物実験の相互検証プログラム」に基づく外部検証を受けており、今回、「第2期外部検証プログラム」に基づく2度目の外部検証である。前回の外部検証時に指摘された指摘事項などはほとんど改善されており、各部局間において飼養保管施設や実験室を相互点検する体制がとられている等、適正な動物実験の実施体制において積極的な改善に取り組んでいることは高く評価できる。また、霊長類研究所における飼養保管体制、特に獣医学的ケアに関する設備や体制は模範的である。

## II. 実施状況

### 1. 動物実験委員会

#### 1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、適正に機能している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

#### 2) 自己点検・評価の妥当性

各部局の動物実験委員会により動物実験計画書が審査された後、全学の動物実験委員会において最終的な確認を行っている。また、それぞれの動物実験委員会において、実施結果に対する助言、飼養保管施設や実験室の調査、教育訓練、自己点検・評価等、基本指針や機関内規程に定められた動物実験委員会の活動が適正に実施され、議事録も適切に保管されている。よって、動物実験委員会の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

#### 3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、適正に機能している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

#### 4) 改善に向けた意見

一部の部局動物実験委員会の議事録について、様式並びに内容等について全学動物実験委員会の議事録との整合性などの改善を検討されたい。

### 2. 動物実験の実施状況

#### 1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、適正に動物実験を実施している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

#### 2) 自己点検・評価の妥当性

基本指針や機関内規程に則して動物実験計画書の審査が実施され、2019 年度には 1400 件の動物実験計画書が承認されている。動物実験結果報告書及び自己点検報告書（動物実験実施状況）の提出率はほぼ 100% であり、年度ごとの実施状況を的確に把握している。よって、動物実験の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

#### 3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。

## 2020 年度 検証結果報告書（京都大学）

<input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見 特になし。

### 3. 安全管理に注意を要する動物実験の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果
<input type="checkbox"/> 基本指針に適合し、当該実験を適正に実施している。 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験を行っていない。
2) 自己点検・評価の妥当性 <p>安全管理に注意を要する動物実験は、法令及び大学の諸規程に則して安全に実施されている。また、必要な安全設備は適切に整備されていた。なお、文学研究科、医学研究科、農学研究科、靈長類研究所において動物実験による外傷や咬傷など 9 件の事故等の報告があったが、すべて適切に対応していた。よって、安全管理に注意を要する動物実験の実施状況について、「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。」との自己点検・評価の結果であるが、「該当する動物実験が適正に実施されている。」とする。</p>
3) 検証の結果
<input checked="" type="checkbox"/> 該当する動物実験が適正に実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験は行われていない。
4) 改善に向けた意見 動物実験による事故に対しては適切に対応されているが、事故予防対策等を周知徹底されたい。

### 4. 実験動物の飼養保管状況

1) 機関による自己点検・評価結果
<input type="checkbox"/> 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

実験動物の飼養保管は「動物実験施設飼養保管マニュアル」に相当する部局動物実験の実施に関する要項、内規、基準、マニュアル等に従って、ほぼ適正に実施されている。また、各飼養保管施設において、実験動物飼養保管状況の自己点検を行っており、自己点検報告書（飼養保管施設管理状況）が100%提出されている。しかしながら、一部の部局の実験動物飼養保管状況において温湿度を記録するなど管理の改善を要する点がある。よって、実験動物の飼養保管状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

医学研究科附属動物実験施設、iPS 細胞研究所附属動物実験施設などの主要な実験動物飼養保管施設の飼養保管状況は非常に優れていたが、一部の部局の小規模な実験動物飼養保管施設については環境や健康管理に若干の改善の余地がある。主要な実験動物飼養保管施設の飼養保管状況に準ずるよう改善されたい。

5. 施設等の維持管理の状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に維持管理している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

飼養保管施設は、基本指針や飼養保管基準等に従い適正に維持管理されている。また、飼養保管施設のセキュリティや入退室の管理が適切にされ、委員会等による定期的な調査、視察等も実施されている。よって、施設等の維持管理の状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

特になし。

<p>6. 教育訓練の実施状況</p> <p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。</li><li>□ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</li><li>□ 多くの改善すべき問題がある。</li></ul> <p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>全学動物実験委員会による基本指針に則した e-Learning 教育訓練と部局動物実験委員会による教育訓練が実施されており、2019 年度の受講者は 967 人であった。また、留学生用に英語版の講習会資料も作成され、受講後は試験が実施されている。さらに、実験動物管理者に日本実験動物学会の実験動物管理者等研修会受講を推奨しており、京都大学実験動物管理セミナーなどにより、専門情報修得に努めていることは評価できる。よって、教育訓練の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p> <p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。</li><li>□ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</li><li>□ 多くの改善すべき問題がある。</li></ul> <p>4) 改善に向けた意見</p> <p>特になし。</p>

<p>7. 自己点検・評価、情報公開</p> <p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。</li><li>□ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</li><li>□ 多くの改善すべき問題がある。</li></ul> <p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>平成 19 年度より、各部局における自己点検評価（動物実験実施状況、飼養保管施設管理状況、実験室管理状況）が実施され、全学における動物実験に関する自己点検・評価報告書が毎年作成されている。また、動物実験に関する自己点検・評価報告書及び動物実験関連書類など国立大学法人動物実験施設協議会、公私立大学実験動物施設協議会が推奨するすべての情報公開項目を HP 上に公開している。よって、自己点検・評価、情報公開について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
--

2020 年度 検証結果報告書（京都大学）

3) 検証の結果

- 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

特になし。

8. その他

(動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果)

京都大学における動物実験の実施に関する規程をはじめ、各種申請様式などの英語版が作成され、動物実験を実施する海外の研究者に対して十分配慮されている。また、教育訓練資料も英語版が作成されるとともに、試験による認可が実施されていることは高く評価できる。

日実動学-外検発 第R2-1号-報

# 検証実施証明書

国立大学法人 京都大学  
総長 湊 長博 殿

貴機関は 公益社団法人日本実験動物学会  
外部検証委員会による「動物実験に関する  
外部検証事業」による自己点検・評価を行い  
その結果に対する検証を本委員会が実施した  
ことを証します

2021年3月4日

公益社団法人日本実験動物学会  
理事長 三好 一郎



No.2020-1



Japanese Association for Laboratory Animal Sciences

## CERTIFICATE

President Nagahiro Minato  
Kyoto University

Dear President

In every Japanese institution under the jurisdiction of Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, MEXT, self-inspections and evaluations for the conduct of animal experiment and related activities must be verified by a third party, independent of the research institution concerned.

Japanese Association for Laboratory Animal Science (JALAS) certify that Kyoto University received "Assessment and Verification Program for Care and Use of Laboratory Animals in 2020".

Sincerely yours

4 March, 2021

A handwritten signature in black ink, appearing to read "Ichiro Miyoshi".

Ichiro Miyoshi DVM PhD  
DJCLAM  
President  
JALAS

A handwritten signature in black ink, appearing to read "Masakazu Kita".

Masakazu Kita DVM PhD  
Chairman  
Assesment and Verification  
Committee, JALAS